群馬県立女子大学玉村校舎40周年関連企画

ユリノ木と群馬学

ー建築と彫刻から探るキャンパス景観ー

第41回 群馬学 連続シンポジウム

2022年 10月23日(日) 13:30〜16:00

参加費：500円（大学生以下無料）
※会場参加特典付き　※事前申し込みが必要です。

会　場：群馬県立女子大学 2号館第1講義室

2大参加特典！

① 来年度刊行予定の地域学ブックレット
『群馬の歴史と文化遺産Vol.11
ユリノ木と群馬学 ー建築と彫刻から探るキャンパス景観ー』
を贈呈します。　＊配布方法は別途ご案内します。

② 当日会場で、地域学ブックレットのバックナンバー
『群馬の歴史と文化遺産Vol.1〜8』を無償で頒布します。

第一部　講演

景観と建築ー群馬における建築物の設計／デザイン
石原 久三郎（株式会社 坂倉建築研究所 元所員）

景観と彫刻ー群馬の美術館と屋外彫刻／オブジェ
神尾 玲子　（群馬県立館林美術館 学芸係長）

群馬県立女子大学の歴史資料調査／ヒストリー
藤沢 桜子　（群馬県立女子大学 教授）

第二部　パネルディスカッション

アートからみる群馬の景観

パネリスト　石原 久三郎（株式会社 坂倉建築研究所 元所員）
神尾 玲子　（群馬県立館林美術館 学芸係長）
藤沢 桜子　（群馬県立女子大学 教授）
野村 留美子（群馬県立女子大学同窓会「紫桜会」会長）
桐渕 彩良　柴田 柚穂　寺嶌 瑠菜
（群馬県立女子大学大学院文学研究科芸術学専攻 学生）
コーディネーター　簗瀬 大輔　（群馬県立女子大学群馬学センター 准教授）

同時開催展覧会「ユリノ木物語ー開学記念樹ユリノ木と辿るキャンパスー」
開催期間　10月18日(火)〜10月27日(木)　※休館日22日(土)
時間　11:00〜16:00　※23日 (日)のみ16:40まで
会場　群馬県立女子大学 実技棟ギャラリー

「ユリノ木物語 群馬県立女子大学の歴史研究」プロジェクトチームのロゴマークについて
このロゴマークは開学記念樹のユリノ木の花と葉をモチーフにしており、6枚の花弁がほころぶ様子から、プロジェクトの始まりを表しています。同時に、将来花開いていく予感を表現しました。

お申し込み・お問い合わせ
〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1 群馬県立女子大学事務局 連携推進係
電話：0270-65-8511／FAX：0270-65-9538　E-mail：gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp
WEB：https://www.gpwu.ac.jp/

主催　群馬県立女子大学
企画　群馬県立女子大学　群馬学センター　文学部美学美術史学科／大学院文学研究科芸術学専攻
「ユリノ木物語 群馬県立女子大学の歴史研究」プロジェクトチーム
後援　玉村町　上毛新聞社　群馬テレビ　FM GUNMA　群馬県地域文化研究協議会　群馬歴史資料継承ネットワーク

design：ryo takahashi

第41回 群馬学連続シンポジウム

群馬県立女子大学玉村校舎40周年関連企画

ユリノ木と群馬学

ー建築と彫刻から探るキャンパス景観ー

本学は開学から2年半後の1982年10月に前橋市から現在の玉村町に移転し、玉村校舎は今年で40周年を迎えます。これを記念して、本学にとっては日常風景であるキャンパスをあらためてアート空間としてとらえてみたいと考えました。玉村校舎は1985年に建築業協会賞（BCS賞）を受賞した建物であり、円形広場の噴水彫刻は、群馬県ゆかりの作家である半田富久氏の作品です。

40年前の玉村校舎はどのようなコンセプトで建設されたのでしょうか。また、屋外彫刻にはどのような機能があるのでしょうか。そして、年月の経過はどのような効果や影響をもたらすのでしょうか。群馬の自然や文化が織りなす景観という枠組みのなかで、その構成要素であるとともにアート空間を創出する建築や彫刻について考察します。

ユリノ木（ユリノキ）は、本学の開学記念樹です。キャンパスの植栽も重要な景観要素です。さまざまな大学資料を保存・調査していくことで、群馬や本学の魅力を再発見していきます。

講師プロフィール

石原　久三郎 有限会社石原計画設計・取締役　Kyuzaburo ISHIHARA

東京工業大学工学部建築学科卒業、同大学篠原研究室研究生　一級建築士
1973年に株式会社坂倉建築研究所入社、株式会社アーキブレーン建築研究所を経て、1998年に石原計画設計を設立、現在に至る。
設計主担当作品に埼玉県青少年総合野外活動センター（1975年）、桐生市上三つ堀団地及び保育園（1978年）、埼玉県立名栗少年自然の家（名栗げんきプラザ本館、1981年）、群馬県立女子大学（1982年、BCS賞受賞）、新宿ワシントンホテル新館（1983年）、NTSシステム総合研究所基本設計（1999年、BCS賞受賞）、大江戸線清澄白河駅（2000年、グッドデザイン金賞受賞）など。

神尾　玲子 群馬県立館林美術館・学芸係長（学芸員）　Reiko KAMIO

成城大学文芸学部芸術学科卒業、成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻　博士課程前期修了（西洋美術史専攻）
1997年より群馬県立館林美術館の開館準備に関わり、2001年の開館に立ち会う。その後異動により群馬県立近代美術館にも勤務、2020年より現職。所蔵作家のフランソワ・ポンポンに関する研究や、近現代彫刻に関する展覧会を多く手がけている。
最近担当した展覧会に「夏休み！いきもの図鑑」（2014年）、「舟越桂　私の中のスフィンクス」（2015年）、「再発見！ニッポンの立体」（2016年）、「森村泰昌とその時代」（2019年）、「野口哲哉 THIS IS NOT A SAMURAI」（2021年）、「生誕110年　傑作誕生・佐藤忠良」（2022年）など。

藤沢　桜子 群馬県立女子大学・教授　Sakurako FUJISAWA

早稲田大学第一文学部史学科美術史学専修卒業、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了　西洋美術史　博士（文学）
人間文化研究機構特別プロジェクト研究員等を経て、2008年に群馬県立女子大学赴任、2014年より現職（文学部美学美術史学科／大学院文学研究科芸術学専攻）。
著書・論文に『西洋美術館』（共著、小学館、1999年）、「ポンペイとその周辺」『イタリアの世界文化遺産を歩く』（同成社、2013年）、「群馬県立女子大学『石膏像を見に行こう！』展の企画と開催」（共著、筆頭執筆者『群馬県立女子大学紀要』第39号、2018年）など。
「ユリノ木物語　群馬県立女子大学の歴史研究」プロジェクトチーム代表。

野村　留美子 群馬県立女子大学同窓会「紫桜会」・会長　Rumiko NOMURA

群馬県立女子大学文学部英文学科卒業、群馬大学教育学部臨時教員養成課程修了
群馬県立高校非常勤講師（英語）　2008年より、群馬県立女子大学同窓会「紫桜会」会長
「紫桜会」は、同窓会員との親睦を図り母校の発展に協力することを目的として1999年設立。大学内のトピックや学生・卒業生の活躍などを紹介している同窓会誌「旬花報」は第20号を迎えた。毎年の活動として、幹事会・総会の開催、活躍する学生への紫桜賞授与、学生活動への支援金の給付、大学祭での同窓会カフェの出店。そしてオリンピックイヤーに合わせた4年に1度の懇親会開催など、本部役員6人と共に同窓会活動の充実に努めている。

簗瀬　大輔 群馬県立女子大学・准教授　Daisuke YANASE

國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了　日本中世史　博士（歴史学）
群馬県立高等学校、群馬県立歴史博物館を経て、2018年より現職。
著書に『上野の戦国地侍』（単著、みやま文庫、2012年）、『関東平野の中世』（単著、高志書院、2015年）、『中世の北関東と京都』（共編著、高志書院、2020年）、『戦国人一上州の150傑一』（共著、上毛新聞社、2021年）、『小田原北条氏と越後上杉氏』（単著、吉川弘文館、2022年）など。
群馬歴史資料継承ネットワーク（ぐんま史料ネット）代表。

参加者特典

会場で地域学ブックレット「群馬の歴史と文化遺産」のバックナンバーを無償で配布します。

- Vol.1　『本能寺の変と地域学 ー群馬・1582年・夏ー』
- Vol.2　『群馬の土木遺産の魅力 ーめがね橋から矢木沢ダムまでー』
- Vol.3　『新田源氏研究の最前線 ーぐんま源氏ブランドの潮流ー』
- Vol.4　『国際主義と渋沢栄一 ー青い目の人形が見た光と影ー』
- Vol.5　『近世草津再考 ー「慈悲」で読み解く草津温泉の江戸時代ー』
- Vol.6　『西上州・東上州の誕生　交感する中世の神話と歴史』
- Vol.7　『近代化遺産　総合調査の30年』
- Vol.8　『紋章の地域学 ー家紋・寺社紋研究の現状と課題ー』